

UBE

Vol.7

Wings of technology

and spirit of innovation.



株主通信

2009年4月1日～2010年3月31日

株主の皆様へ

“株主通信”をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当期の経済情勢は、一昨年秋の金融危機に端を発した世界経済の不振が継続するなか、中国をはじめ各国の景気刺激策の効果もあり、アジアでは景気回復の動きが広がりましたが、米国、欧州では、景気は下げ止まりながらも、失業率が高水準で推移するなど景気低迷が続きましました。国内経済においても、アジア向けを中心とする輸出の増加、個人消費の持ち直しなどにより、景気は緩やかな回復基調ながら、設備投資の低迷、厳しい雇用環境やデフレ状態の継続など企業を取り巻く経済環境は総じて厳しい状況が続きましました。

このような状況の下、当社グループは2009年度の業績予想値の確実な達成を目指すと共に、非常時対応として、設備投資の圧縮、在庫削減の強化、徹底したコスト削減などを実施し、収益の底上げに取り組んでまいりましたが、当期の連結業績は減収減益でありました。

なお、当期の期末配当は前期と同じく1株につき4円とさせていた

だきました。

当社グループは、前中期経営計画「ステージアップ 2009」の基本的な方針は継続しながらも、さらなる成長に挑戦するため、2010年度を初年度とする3ヵ年の新中期経営計画「ステージアップ 2012 -新たなる挑戦-」を策定いたしました。

「成長への挑戦」、「パラダイムシフトへの挑戦(キーワードは「新興国」と「環境）」、「前中期経営計画数値目標への再度の挑戦」の3つに挑み、グループの総力を結集して目標達成を図り、株主や資本市場をはじめ、取引先・従業員・地域社会等、すべてのステークホルダーからの信認をさらに深めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 竹下道夫



CONTENTS

株主の皆様へ	1
連結業績ハイライト	2
新中期経営計画「ステージアップ 2012 -新たなる挑戦-」	3
部門別概況(連結)	4
トピックス	5
決算の概況(連結)	7
決算の概況(単独)	9
会社情報	9
株式情報	10

マネジメント・チーム (2010年6月29日現在)

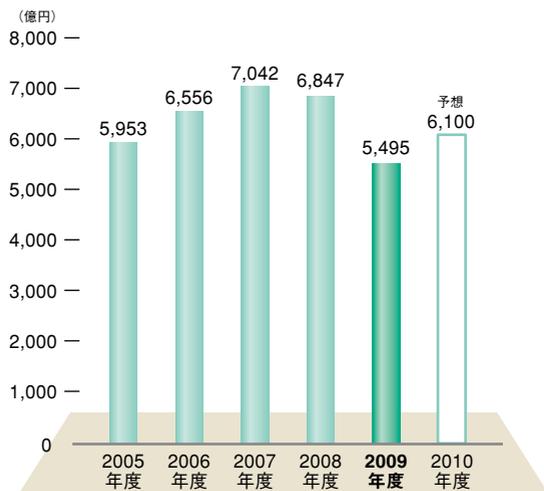


後列左から：糸口栄一執行役員、妙中信之常務執行役員、渡邊史信常務執行役員、松本善臣取締役*、梅津誠取締役、関谷一真専務執行役員、山本謙専務執行役員
前列左から：高橋信行専務執行役員、岡田和彦代表取締役、田村浩章取締役会長、竹下道夫代表取締役社長、古川陽道取締役、元田充隆取締役*

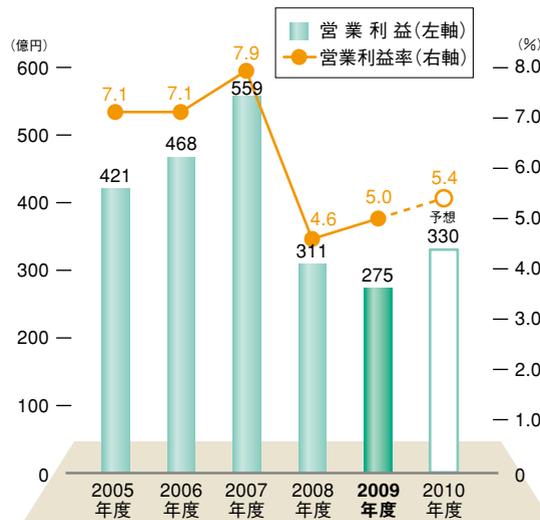
*社外取締役

連結業績ハイライト

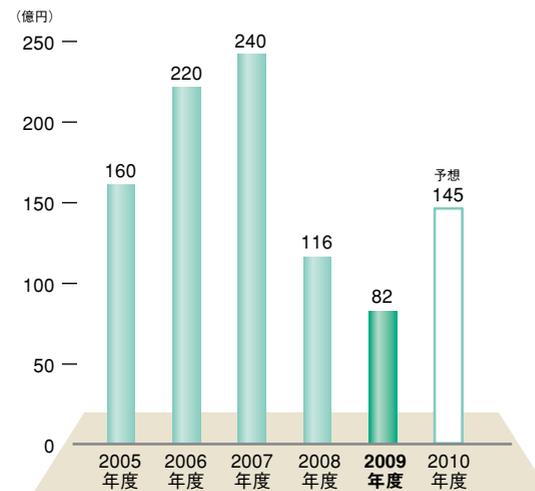
売上高



営業利益と売上高営業利益率



当期純利益

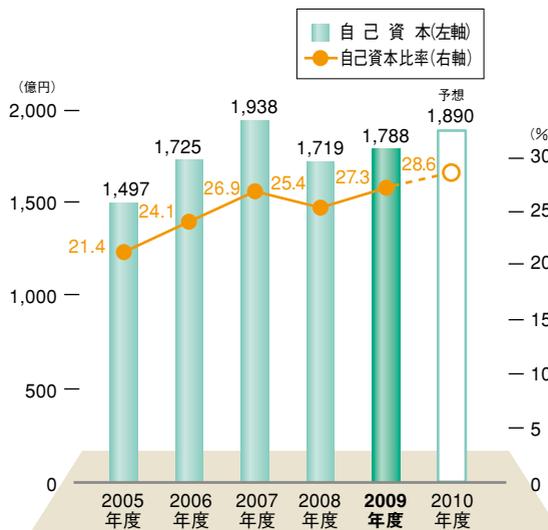


純有利子負債とネットD/Eレシオ*



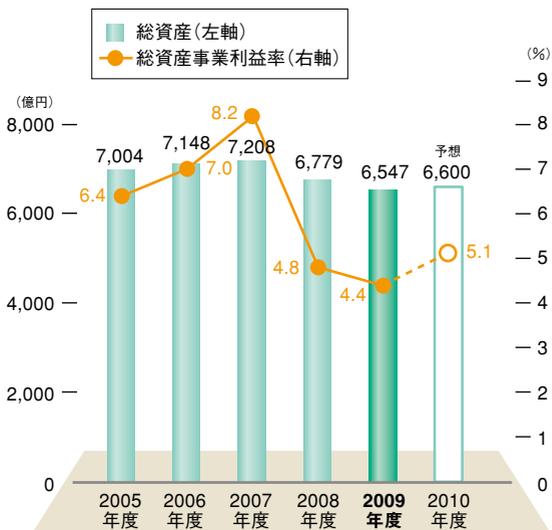
*ネットD/Eレシオ =
純有利子負債 (= 有利子負債 - 現金・現金同等物) / 自己資本

自己資本と自己資本比率*



*自己資本比率 =
自己資本 (= 純資産 - 新株予約権 - 少数株主持分) / 総資産

総資産と総資産事業利益率(ROA)*



*総資産事業利益率(ROA) =
事業利益 (= 営業利益 + 受取利息・受取配当金 + 持分法投資損益) / 総資産

新中期経営計画「ステージアップ 2012 - 新たなる挑戦 -」

UBEグループは、2007年度から2009年度を対象期間とする中期経営計画「ステージアップ 2009」の終了に伴い、2010年度から2012年度を対象期間とする3カ年の新中期経営計画「ステージアップ 2012 - 新たなる挑戦 -」を策定しました。3つの「新たなる挑戦」を通じて、さらなる成長を目指してまいります。

3つの「新たなる挑戦」

(1) 成長への挑戦

医薬、電池材料、ファインケミカル、ポリイミドチェーンの4事業を牽引役として、UBEグループを再び成長軌道へ乗せる

(2) パラダイムシフトへの挑戦

「新興国」と「環境」を強く意識し、経営を取り巻く枠組みの大きな変化に積極的に対処する

(3) 前中期経営計画数値目標への再度の挑戦

未達に終わった前中期経営計画の数値目標に再挑戦し、営業利益目標530億円、ネットD/Eレシオ1倍未満を早期に実現する

基本方針

- (1) 持続的成長を可能にする収益基盤の確立
- (2) 財務構造改革の継続
- (3) 地球環境問題への対応と貢献

キーワード

「スピードと革新」

事業戦略

「ステージアップ 2012 - 新たなる挑戦 -」では、前計画「ステージアップ 2009」に引き続き、市場成長性・市場占有率・事業規模・利益率などの基準で次の4つに分類した事業ポートフォリオ戦略に基づき、差別化された化学事業を中心として発展を図ってまいります。

- (1) 育成事業：可能な限り早期に目標の規模と収益性を達成し、成長戦略事業に育てる。
- (2) 成長戦略事業：集中的に資源投入し、迅速な事業規模の拡大と収益増大を図る。
- (3) 中核基盤事業：事業の維持あるいは収益の拡大のために必要な資源投入により、安定的収益・キャッシュフローの確保を図る。
- (4) 再生事業：抜本的収益改善策の立案・実施により事業再生を図る。

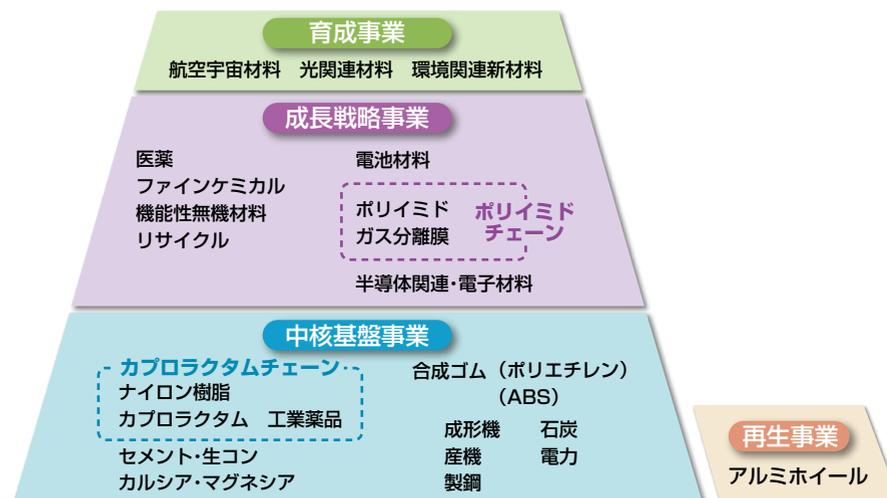
数値目標・ターゲット指標

経営指標		2009年度実績	2012年度目標	2015年度ターゲット指標
財務指標	ネットD/Eレシオ	1.4倍	1.0倍未満	—
	自己資本比率	27.3%	30%以上	—
収益指標	売上高営業利益率	5.0%	7.5%以上	8.0%以上
	総資産事業利益率(ROA)	4.4%	7.5%以上	8.0%以上
	自己資本当期純利益率(ROE)*	4.7%	12%以上	—

*自己資本当期純利益率(ROE) = 当期純利益 / 自己資本

損益計算書・貸借対照表の主要項目	2009年度実績	2012年度目標	2015年度ターゲット指標
売上高	5,495億円	6,700億円以上	—
営業利益	275億円	530億円以上	700億円以上
事業利益	293億円	550億円以上	—
純有利子負債	2,440億円	2,200億円未満	—
自己資本	1,788億円	2,250億円以上	—

UBEグループの事業ポートフォリオ



部門別概況(連結)

部門	主要商品	売上高比率	部門別概況
化成品・樹脂 売上高 1,611 億円 (前期比24.2%減) 営業利益 51 億円 (前期比152.5%増)	 <ul style="list-style-type: none"> ● 合成ゴム ● カプロラクタムチェーン ・ カプロラクタム ・ ナイロン樹脂 ・ 工業薬品 	 <p>29%</p>	<p>カプロラクタム、ナイロン樹脂、ポリブタジエン(合成ゴム)の各製品の出荷は、前期の後半から大きく落ち込んだ需要がアジア市場で急回復したことにより、それぞれ前期を上回りましたが、原料価格下落に伴う市況悪化の影響を受け、販売価格は低下しました。需要回復が遅れた工業薬品の出荷は低調でした。</p>
機能品・ファイン 売上高 754 億円 (前期比13.4%減) 営業利益 72 億円 (前期比7.4%増)	 <ul style="list-style-type: none"> ● 機能性材料 ・ ポリイミド ・ 電池材料(電解液、セパレーター) ・ 半導体関連・電子材料 (高純度化学薬品、光通信関連) ・ ガス分離膜 ・ セラミックス ・ 通信部品 ● ファインケミカル ● 医薬品(原体、中間体) 	 <p>14%</p>	<p>一昨年秋以降の景気後退で急減した需要は、部門全体としては緩やかに回復しましたが、その中でリチウムイオン電池用電解液・セパレーターおよび医薬品原体・中間体の出荷は好調でした。ファインケミカル製品および半導体向け高純度化学薬品の出荷も堅調でした。一方、ポリイミド製品の出荷については未だ回復途上にあり、ガス分離膜の出荷は低調でした。</p>
建設資材 売上高 1,848 億円 (前期比11.7%減) 営業利益 61 億円 (前期比30.5%減)	 <ul style="list-style-type: none"> ● セメント・生コン ● 資源リサイクル ● 石灰石 ● 建材関連製品 (セルフレベリング材、左官材、防水材) ● カルシア・マグネシア ● 機能性無機材料 	 <p>34%</p>	<p>セメント・生コン、建材製品の出荷は、企業の設備投資抑制や住宅着工をはじめとする建設需要の落ち込みに加え、公共投資抑制の影響もあり低調でした。また、各種廃棄物の原燃料へのリサイクル利用やマグネシア製品の出荷も低調でした。一方、カルシア製品は粗鋼生産の回復に伴い回復基調にあるものの、出荷は前期を下回りました。</p>
機械・金属成形 売上高 808 億円 (前期比26.6%減) 営業利益 37 億円 (前期比7.9%減)	 <ul style="list-style-type: none"> ● 機械 ・ 成形機 (ダイカストマシン、射出成形機) ・ 産機(運搬機、ミル、破砕機) ・ 橋梁・鉄構 ・ 製鋼品 ● アルミホイール 	 <p>15%</p>	<p>機械事業は、海外の資源関連産業向けを中心とした窯業機や堅型ミルなど各種産業機械の出荷は好調でしたが、成形機の出荷は自動車関連設備の投資抑制の影響を大きく受け低調でした。受注は成形機で大幅に減少し、各種産業機械でも鈍化しました。アルミホイール事業は、ハイブリッド車向けを中心に需要が回復してきたものの出荷は前期を下回りました。一方、業績は北米事業の撤退により前期に比べ改善しました。</p>
エネルギー・環境 売上高 436 億円 (前期比29.4%減) 営業利益 43 億円 (前期比49.5%減)	 <ul style="list-style-type: none"> ● 石炭 ● 電力 	 <p>8%</p>	<p>販売炭の出荷、コールセンター(石炭貯蔵場)の取扱い数量とも、主要顧客である電力、化学、繊維等向けの需要低迷により低調でした。電力卸供給事業においては隔年で実施している定期修理の影響もあり、前期に比べ稼働率および供給量が低下し、補修費も増加しました。</p>

トピックス

2009年度トピックス一覧

- 2009年 4月 窒化珪素の増産設備が完工
- 4月 第6期機能膜製造設備が営業運転を開始
- 5月 中国・南通市の合併会社「台橡宇部(南通)化学工業有限公司」のポリブタジエンラバー (BR)工場が営業運転を開始
- 6月 (財)宇部興産学術振興財団が設立50周年記念式典を開催
- 6月 タイ国でのカプロラクタム製造工程における亜酸化窒素(N₂O)削減で国連からCDM登録の承認を取得
- 6月 タイ国のウベ・ファイン・ケミカルズ・アジア社で1,6ヘキサジオール工場の建設に着手
- 7月 地球温暖化対策への取り組み強化として「地球温暖化対策推進室」を新設
- 7月 第一三共(株)と共同で創製した抗血小板剤「エフィエント」が米国食品医薬品庁(FDA)の承認を取得
- 7月 アルミホイール事業を分社化し、宇部興産ホイール(株)が発足
- 9月 刈田セメント工場に燃料系廃棄物処理の第3期設備が完工 **Topics 2**
- 10月 グループ内に分散する機能性無機材料事業の連携と効率的な事業化推進を促進するため「UBEグループ機能性無機材料事業化推進室」を新設 **Topics 1**
- 12月 第四医薬品製造設備建設を決定 **Topics 3**
- 2010年 1月 シャープ(株)が保有するリサイクルポリプロピレン材に関する特許について実施許諾契約を締結 **Topics 4**
- 2月 タイ国の子会社タイ・カプロラクタム社とウベ・ナイロン・タイランド社を垂直統合し、ウベ・ケミカルズ・アジア社を設立
- 3月 宇部マテリアルズ(株)が高機能性酸化亜鉛粉末を開発 **Topics 5**

Topics 1

全社

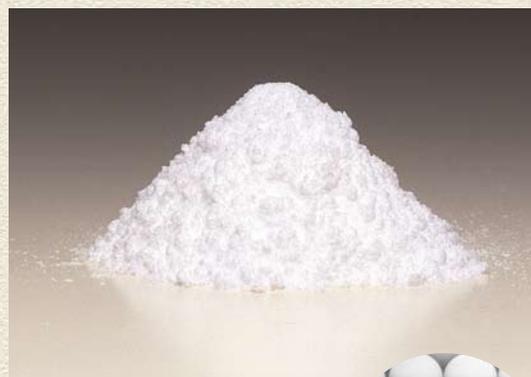
「UBEグループ機能性無機材料事業化推進室」を新設



チラノ繊維



光触媒繊維



球状シリカ微粒子(ハイブレスカ)



ハイブレスカ(電顕写真)

当社は、グループ内に分散する機能性無機材料について、技術開発や営業体制の連携強化を図るため、「UBEグループ機能性無機材料事業化推進室」を新設しました。高純度窒化珪素、耐熱性に優れるチラノ繊維*1、環境浄化機能に優れる光触媒*2繊維などの当社製品の他、カルシア・マグネシアなどの高純度セラミックス粉末(宇部マテリアルズ(株))、球状シリカ微粒子(宇部日東化成(株))など特徴ある競争力の高い材料が揃っており、これら材料の事業拡大に取り組んでまいります。



*1 チラノ繊維 炭化ケイ素系のセラミック長繊維です。1000℃以上の高温下でも使用に堪え、フェルトや織物に加工して高耐熱フィルターなどに用いられます。またセラミックスと複合化することにより高強度、高耐熱の材料ができます。

Topics 2

建設資材

荻田セメント工場に燃料系廃棄物処理の第3期設備が完工



荻田セメント工場破砕設備

当社は、セメント事業において廃棄物のリサイクルに積極的に取り組んでいます。この度、荻田セメント工場に、燃料系廃棄物の第3期処理設備が完工いたしました。引き続き、処理技術の開発や処理能力の増強を進め、各種産業や自治体からの廃棄物を原燃料として有効利用することによって、CO₂排出量の抑制と循環型社会の形成に貢献してまいります。

Topics 3

機能品・ファイン

第四医薬品製造設備建設を決定



第三医薬品工場

当社は、医薬品原体・中間体の今後の需要拡大に対応するため、cGMP対応の第四医薬品製造設備の建設を決定しました。独自の創薬技術と製薬会社との共同研究開発から生まれ、当社が原体を製造・供給する抗アレルギー剤「タリオン」、血圧降下剤「カルブロック」、抗血小板剤「エフィント（一般名：プラスグレル）」が順調に売上を拡大しており、製薬会社から新たに製造を受託する原体・中間体も増えています。

*2 光触媒 二酸化チタンを主成分とする触媒です。紫外光を受けると触媒表面に活性酸素を生成し、その酸化力で有害有機物を分解し無害化します。薬品を使わない環境浄化技術として注目されています。

Topics 4

化成品・樹脂

シャープ(株)が保有するリサイクルポリプロピレン材に関する特許について実施許諾契約を締結



着色されたリサイクル樹脂



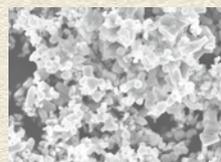
リサイクル樹脂の使用例
(家電・自動車部品)

当社は、着色または表面塗装された廃プラスチックの色調を変えて、表面外観の優れたリサイクル樹脂を製造する独自技術を2003年に開発し、この技術を用いて家電・自動車メーカーと樹脂のリサイクル利用を進めています。この度、シャープ(株)との間で、同社が所有するリサイクルポリプロピレン材に関する特許について、実施許諾を受ける契約を締結しました。これにより、家電や自動車の部品で使用されるリサイクル樹脂の使用範囲がさらに広がりました。

Topics 5

建設資材

宇部マテリアルズ(株)が高機能性酸化亜鉛粉末を開発



高機能性酸化亜鉛粉末
(電顕写真)



太陽電池(用途例)

UBEグループの宇部マテリアルズ(株)は、液晶パネルや太陽電池の電極に使用されている希少金属のITO(インジウムすず酸化物)の代替材料となる高機能性酸化亜鉛^{*3}粉末を開発しました。今回開発した酸化亜鉛粉末は、高純度かつ微細な粒子径をもち、液晶パネル、太陽電池、青色LED、化粧品などさまざまな用途が期待されます。

*3 酸化亜鉛 酸化亜鉛は、微量のアルミニウムなどを添加することで、導電性を発現することから、透明電極として使用されます。また、紫外線を効率よく吸収するため、化粧品にも使用されたり、発光機能を有することから、青色LEDの用途へも期待されています。

決算の概況(連結)

連結貸借対照表

(単位：百万円)

主な科目	前期 (2009年3月31日現在)	当期 (2010年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	277,553	261,587
現金及び預金	39,343	37,511
受取手形及び売掛金	124,049	133,522
たな卸資産	92,612	69,704
その他	21,549	20,850
固定資産	400,379	393,171
有形固定資産	332,418	324,732
無形固定資産	4,158	4,213
投資その他の資産	63,803	64,226
繰延資産	54	35
資産合計 POINT 1	677,986	654,793

主な科目	前期 (2009年3月31日現在)	当期 (2010年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	269,025	246,473
支払手形及び買掛金	80,304	78,983
短期借入金	130,146	111,555
1年内償還予定の社債	80	560
その他	58,495	55,375
固定負債	214,238	206,130
社債	16,000	15,140
長期借入金	159,810	152,954
退職給付引当金	7,213	7,246
その他	31,215	30,790
負債合計 POINT 2	483,263	452,603
純資産の部		
株主資本	183,762	187,689
資本金	58,435	58,435
資本剰余金	28,440	28,445
利益剰余金	97,511	101,579
自己株式	△624	△770
評価・換算差額等	△11,816	△8,850
新株予約権	250	318
少数株主持分	22,527	23,033
純資産合計 POINT 3	194,723	202,190
負債・純資産合計	677,986	654,793

POINT 1 資産

たな卸資産が229億円減少したことなどにより、前期比231億円(3.4%)減少しました。

POINT 2 負債

有利子負債が254億円減少したことなどにより、前期比306億円(6.3%)減少しました。

POINT 3 純資産

利益剰余金が40億円増加したこと及び為替換算調整勘定が24億円改善したことなどにより、前期比74億円(3.8%)増加しました。

連結損益計算書 POINT 4

(単位：百万円)

主な科目	前期	当期
	(自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)	(自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)
売上高	684,703	549,556
売上原価	572,010	448,328
売上総利益	112,693	101,228
販売費及び一般管理費	81,530	73,633
営業利益	31,163	27,595
営業外収益	8,446	6,094
営業外費用	19,212	14,694
経常利益	20,397	18,995
特別利益	946	726
特別損失	7,833	4,129
税金等調整前当期純利益	13,510	15,592
法人税等	858	6,210
少数株主利益	988	1,165
当期純利益	11,664	8,217

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

主な科目	前期	当期
	(自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)	(自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー POINT 5	45,531	60,107
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,929	△29,928
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,300	△32,265
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,853	129
現金及び現金同等物の増減額	14,049	△1,957
現金及び現金同等物の期首残高	25,082	39,131
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	107
現金及び現金同等物の期末残高	39,131	37,281

POINT 4 連結損益

厳しい経済環境の中、非常時対応として、設備投資の圧縮、在庫削減の強化、徹底したコスト削減などを実施し、収益の底上げに取り組んでまいりましたが、当期の連結業績は減収減益でありました。

POINT 5 営業活動によるキャッシュ・フロー

運転資金(売上債権、たな卸資産及び仕入債務の増減額合計)の圧縮による131億円の改善などにより営業活動によるキャッシュ・フローが145億円増加しました。

連結株主資本等変動計算書 (自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
前期末残高	58,435	28,440	97,511	△624	183,762	△11,816	250	22,527	194,723
当期変動額									
剰余金の配当			△4,031		△4,031				△4,031
当期純利益			8,217		8,217				8,217
自己株式の取得				△168	△168				△168
自己株式の処分		5		22	27				27
持分法の適用範囲の変動			△118		△118				△118
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						2,966	68	506	3,540
当期変動額合計	—	5	4,068	△146	3,927	2,966	68	506	7,467
当期末残高	58,435	28,445	101,579	△770	187,689	△8,850	318	23,033	202,190

決算の概況(単独)

貸借対照表

(単位:百万円)

主な科目	前期 (2009年3月31日現在)	当期 (2010年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	136,643	129,047
現金及び預金	24,633	20,998
受取手形及び売掛金	52,092	59,174
たな卸資産	41,625	27,413
その他	18,291	21,460
固定資産	321,090	317,581
有形固定資産	201,858	190,138
無形固定資産	2,790	2,740
投資その他の資産	116,441	124,702
繰延資産	49	34
資産合計	457,784	446,663
負債の部		
流動負債	166,969	163,820
支払手形及び買掛金	37,211	35,884
短期借入金	89,426	81,500
その他	40,330	46,435
固定負債	165,229	159,520
社債	15,000	15,000
長期借入金	144,647	138,597
その他	5,582	5,923
負債合計	332,198	323,340
純資産の部		
株主資本	124,484	121,815
資本金	58,434	58,434
資本剰余金	29,226	29,224
利益剰余金	37,247	34,734
自己株式	△424	△578
評価・換算差額等	851	1,188
新株予約権	250	318
純資産合計	125,585	123,322
負債・純資産合計	457,784	446,663

損益計算書

(単位:百万円)

主な科目	前期 (自2008年4月1日 至2009年3月31日)	当期 (自2009年4月1日 至2010年3月31日)
売上高	320,085	254,801
売上原価	267,156	211,062
売上総利益	52,928	43,738
販売費及び一般管理費	39,386	36,647
営業利益	13,542	7,091
営業外収益	8,140	8,994
営業外費用	14,014	11,622
経常利益	7,667	4,463
特別利益	1,246	316
特別損失	10,147	4,655
税引前当期純利益又は損失(△)	△1,232	124
法人税等	△5,754	△1,393
当期純利益	4,521	1,517

会社情報

会社概要 (2010年3月31日現在)

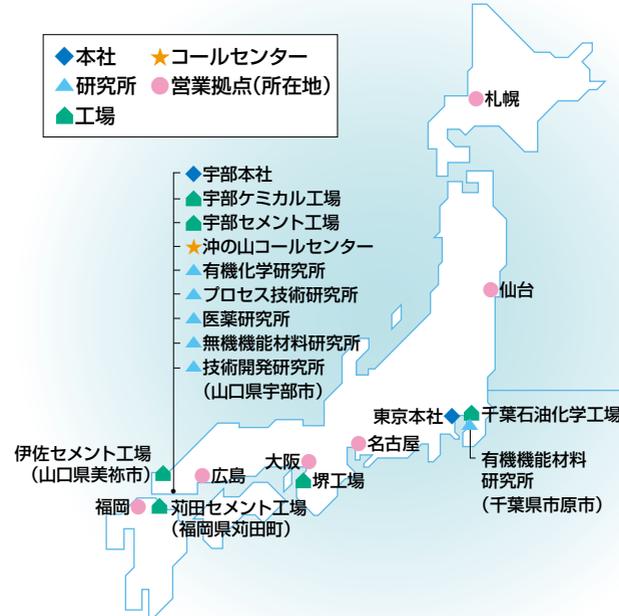
設立	1942(昭和17)年3月
資本金	58,434百万円
従業員数	3,536人(連結 11,108人)
連結対象会社	91社 (連結子会社 67社、持分法適用会社 24社)
ホームページアドレス	http://www.ube.co.jp

役員 (2010年6月29日現在) (注)*は取締役との兼務を示しています。

取締役会長	田村 浩章	社長執行役員*	竹下 道夫
代表取締役社長	竹下 道夫	副社長執行役員*	岡田 和彦
代表取締役	岡田 和彦	専務執行役員	高橋 信行
取締役	古川 陽道	専務執行役員*	古川 陽道
取締役	梅津 誠	専務執行役員	関谷 一眞
社外取締役	松本 善臣	専務執行役員	山本 謙
社外取締役	元田 充隆	常務執行役員	チャルニアピットクン
		常務執行役員*	梅津 誠
常任監査役(常勤)	櫻部 正樹	常務執行役員	杉下 秀幸
常任監査役(常勤)	山中 和郎	常務執行役員	渡邊 史信
常任監査役(常勤)	藤岡 啓介	常務執行役員	妙中 信之
監査役	藤田 光博	執行役員	久保田 隆昌
		執行役員	杉瀬 良二
		執行役員	六角 朋生
		執行役員	松波 正
		執行役員	大原 真二
		執行役員	上田 淳
		執行役員	木内 政行
		執行役員	糸口 栄一
		執行役員	平井 雅典
		執行役員	三隅 淳一
		執行役員	泉原 雅人

主な事業所 (2010年3月31日現在)

国内拠点

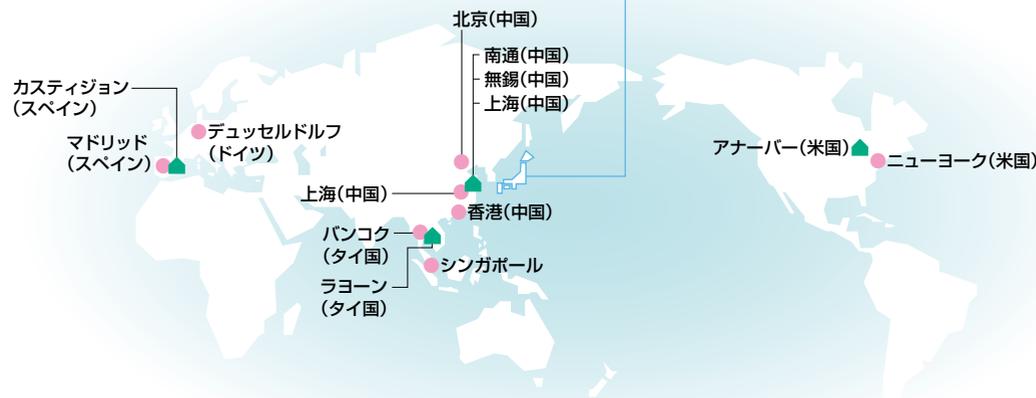


部門別主要連結対象会社

化成品・樹脂部門	建設資材部門
宇部フィルム(株)	宇部興産海運(株)
タイ・シンセティック・ラバーズ社(タイ国)	大協企業(株)
宇部アンモニア工業(有)	萩森興産(株)
ウベ・ケミカル・ヨーロッパ社(スペイン)	ウベボード(株)
ウベ・ケミカルズ・アジア社(タイ国)	宇部建設資材販売(株)
ウベ・エンジニアリング・プラスチック社(スペイン)	(株)関東宇部ホールディングス
ウベ・ホンコン社(中国)	宇部マテリアルズ(株)
	山石金属(株)
	宇部三菱セメント(株)*
機能品・ファイン部門	機械・金属成形部門
宇部日東化成(株)	宇部興産機械(株)
明和化成(株)	ウベ・マシンリー社(米国)
ユー・イー・エル(株)	宇部テクノエンジニア(株)
ウベ・ファイン・ケミカルズ・アジア社(タイ国)	(株)宇部スチール
ウベ・アメリカ社(米国)	(株)福島製作所
	宇部興産ホイール(株)
エネルギー・環境部門	その他の部門
宇部シーアンドエー(株)	ウベ・コーポレーション・ヨーロッパ社(スペイン)

*持分法適用会社

海外拠点 (主要な海外子会社の所在地)



株式の状況

発行可能株式総数 3,300,000,000株
発行済株式の総数 1,007,153,393株 (自己株式2,011,613株を除く)
株主数 82,034名

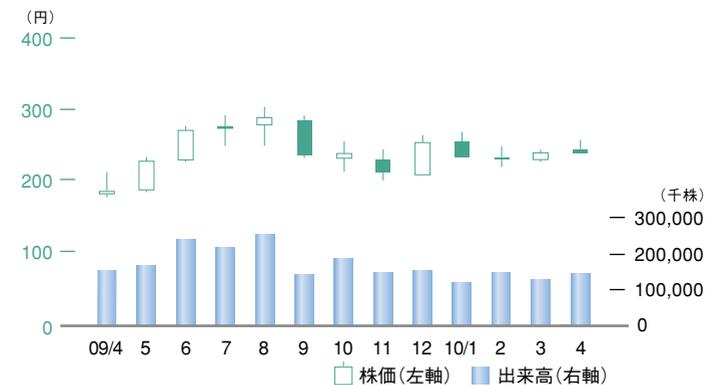
大株主

株主名	株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	99,142	9.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	61,366	6.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	40,199	3.99
日本生命保険相互会社	20,000	1.99
住友生命保険相互会社	20,000	1.99
株式会社三菱東京UFJ銀行	15,000	1.49
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	14,969	1.49
株式会社みずほコーポレート銀行	12,487	1.24
農林中央金庫	12,374	1.23
ジユニパー	12,102	1.20

配当金推移

1株当たり配当金	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
	3.0円	4.0円	5.0円	4.0円	4.0円	5.0円 (期末配当予定)

株価及び出来高 (東京証券取引所)



Information

単元未満株式(当社では1,000株未満の株式)の買取・買増制度について

当社株式の市場取引は1,000株単位となっておりますので、単元未満株式をお持ちの株主様につきましても、端数となっております株式が整理できる買取・買増制度を設けております。証券会社等にお持ちの口座に単元未満株式がございます場合には、お取引証券会社等へお申し出ください。

買取請求とは 株主様がご所有の単元未満株式を、当社に対して時価で売却することができる手続きです。

買増請求とは 株主様がご所有の単元未満株式と合わせて1単元(1,000株)となるように、当社に対して時価で単元未満株式の売り渡しを請求することができる手続きです。

特別口座にご所有の株式の振替請求について

株券電子化移行時点で、証券会社等を通じて証券保管振替機構に預託されなかった株式につきましては、ご名義人のお名前で三菱UFJ信託銀行に開設いたしました特別口座にて管理されております。

証券会社等に口座をお持ちでない株主様につきましては、特別口座を開設して株数が記録されておりますので、特別口座管理機関の三菱UFJ信託銀行 証券代行部(電話0120-232-711)へお申し出ください。

特別口座の株式をお取引のある証券会社口座へお振替いただくことが可能となっておりますので、振替請求をご希望される株主様につきましては、特別口座管理機関の三菱UFJ信託銀行 証券代行部(電話0120-232-711)へお申し出ください。

株主メモ

- **事業年度** 毎年4月1日より翌年3月31日まで
- **定時株主総会開催時期** 6月下旬
- **基準日**
 - 定時株主総会 3月31日
 - 期末配当 3月31日
 - 中間配当 9月30日
- **公告の方法** 電子公告
<http://www.ube.co.jp>
- **株主名簿管理人 特別口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- **同事務取扱場所** 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同連絡先) 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(通話料無料)

【株式に関するお手続きについて】

1. 単元未満株式の買取・買増、住所・氏名等のご変更、株式の口座振替請求、配当金受取方法の指定等のお申出先原則、株主様が口座を開設されているお取引証券会社等にて手続きをお取りください。
ただし、証券会社等に口座をお持ちでない株主様につきましては、特別口座を開設して株数が記録されておりますので、特別口座管理機関である三菱UFJ信託銀行 証券代行部にて手続きをお取りください。
2. 未払配当金のお支払い、その他株式事務に関する一般的なお問合せ
株主名簿管理人の三菱UFJ信託銀行 証券代行部にお問合せください。

宇部興産株式会社 ■東京本社 〒105-8449 東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館
■宇部本社 〒755-8633 山口県宇部市大字小串1978-96

※本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれています。
実際の業績は当社の予想と大きく異なることがありますことをご承知おください。



文化庁登録第17298号の1



本書は、環境に配慮し適切に(持続可能に)管理された森林からの木材を使用し、塩素化合物の排出を最小限に抑えたECF(無塩素漂白)パルプから製造された用紙と、植物性大豆油インクを使用しています。